

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 岡山東商業 高等学校
実践場面	岡山県の新名物を考案（企業と連携した商品開発）
実践日時（時期）	令和6年2月～12月
対象生徒（学年）	ビジネス創造科3年生
連携の形態	<input type="checkbox"/> 包括連携協定（ ） <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 産学連携企画として、学校独自の繋がりから連携 ）
学びの分類	<input type="checkbox"/> 講演会・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターシップ <input checked="" type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最先端の技術・設備の見学 <input type="checkbox"/> その他

実践の内容

【背景】

- ・西日本高速道路サービス・ホールディングス（株）では産学連携企画によって岡山県と関西・中国地区のSA・PAを盛り上げるべく、「岡山県の新名物開発」をテーマに商品の開発を計画していた。
- ・岡山東商業高校では、これまでも企業とのコラボによる新商品開発の実績があり、上記の新名物開発の協力依頼があった。



【実践内容】

- ・3年生の科目「商品開発と流通」の中で、生徒が新商品のアイデアを出し合った。
- ・全39件のアイデアの中から、岡山県産「備中白小豆を使用した白あん」と岡山銘菓「きびだんご」を柔らかいどらやきの生地で挟んだ「どらきび」のアイデアが選ばれた。また、パッケージデザインについても生徒のアイデアの中から選定した。



- ・考案した商品は（株）廣榮堂が製造し、9月5日（木）の試食会、11月16日（土）の「東商デパート（岡山東商業高校が行う大規模販売実習）」での試験販売を経て、12月7日（土）から関西・中国地区のSA・PAで先行販売された。販売するSA・PAは順次拡大し、岡山駅や（株）廣榮堂直営店などSA・PA以外の店舗でも販売する予定である。
- ・12月14日（土）には、山陽自動車道 吉備SA（上下線）で、商品のPR活動を行った。

実践による効果等

- ・商品のアイデアを出し、それが実際の商品となって販売され、また、その商品のPR活動を行うなど、商品開発・販売について実体験を通じて学ぶことができた。
- ・考案した生徒からは、「商業科での学びを生かし、どのような商品が「岡山県の新名物」になるのか考えた。自分のアイデアが実際の商品になり、すごく驚いた。全世代の人に美味しく食べてほしい。」という感想があった。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）